令和8年度　全国学力・学習状況調査
和泉市調査結果概要



調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から

①全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。

②学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

③「①・②」の取組みを通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

調査概要

調査実施日	令和8年4月23日(木)
調査対象	①小学校調査：小学校6年生、義務教育学校6年生 ②中学校調査：中学校3年生、義務教育学校9年生
調査内容	①小学校調査：教科調査【国語、算数】、児童質問調査（オンライン回答） ②中学校調査：教科調査【国語、数学、英語】、生徒質問調査（オンライン回答）
調査問題	＊学習指導要領で育成をめざす、知識及び技能や思考力、判断力、表現力等を問う問題
今年度の調査の特徴	＊児童生徒質問調査について、オンラインによる回答方式で実施 ＊中学校英語は、文部科学省CBTシステム(MEXCBT)によるオンライン方式で実施 （CBT：Computer Based Testing）

教科に関する調査結果概要

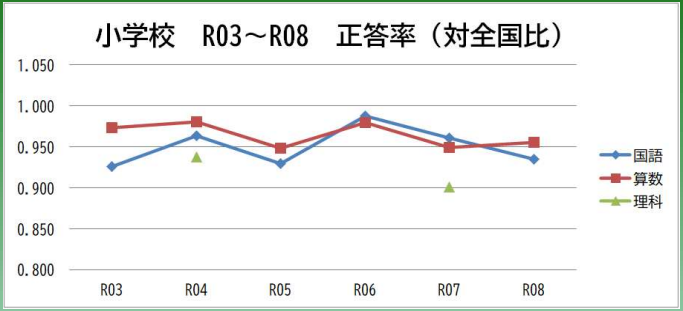
和泉市の平均正答数・無解答率

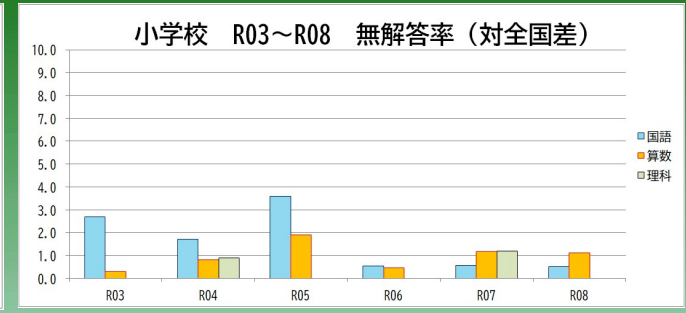
	小学校調査		中学校調査		
教科	国語	算数	国語	数学	英語※
平均正答数	7.4/13問	8.6/16問	8.5/15問	8.0/16問	467
無解答率	3.9%	4.3%	8.5%	17.2%	——

※　中学校調査英語においては、生徒により出題された問題が異なるため、平均正答数にはIRT値を示しています。
IRT(Item Response Theory)とは、児童生徒の正答・誤答が問題の特性(難易度、測定精度)によるのか、児童生徒の学力によるのかを区別し、児童生徒の学力スコアを推定する統計理論です。

※本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面です。

【教科に関する調査結果】～和泉市調査結果(小学校)～





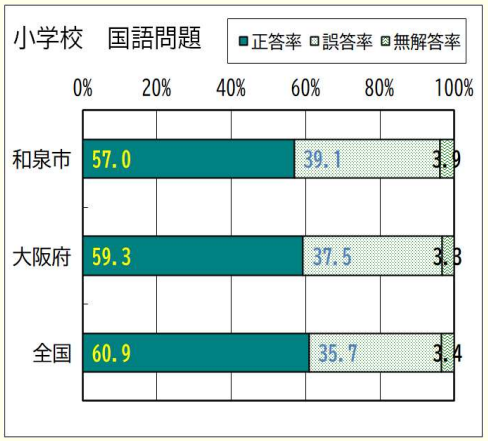
＊正答率（対全国比）
市平均正答率÷全国平均正答率

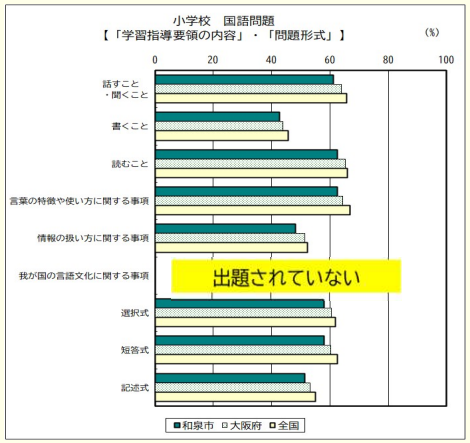
＊無解答率（対全国差）
市無解答率-全国無解答率

小学校　国語

○平均正答率は、57.0%で全国を3.9ポイント下回り（対全国比0.936）、府を2.3ポイント下回った（対府比0.961）。

○全国と比較すると全ての領域・問題形式で数値が低くなっており、特に「書くこと」に課題がある。ただし、記述式の無解答率については改善傾向が見られた。

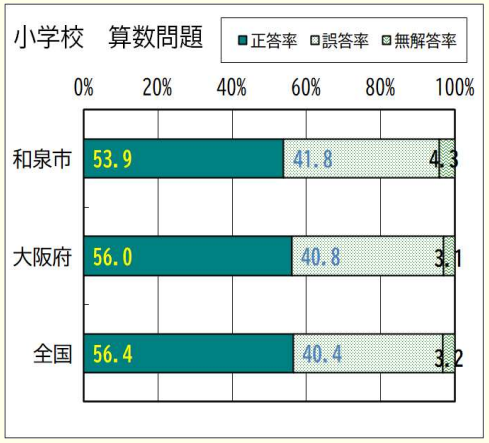


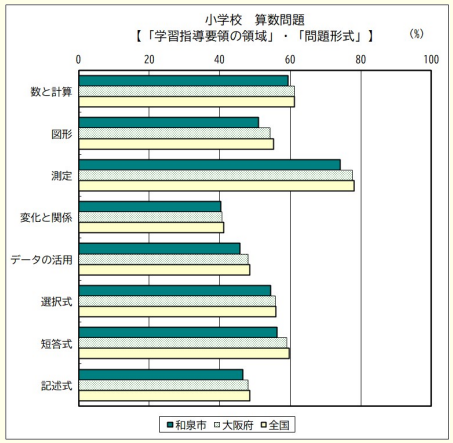


小学校　算数

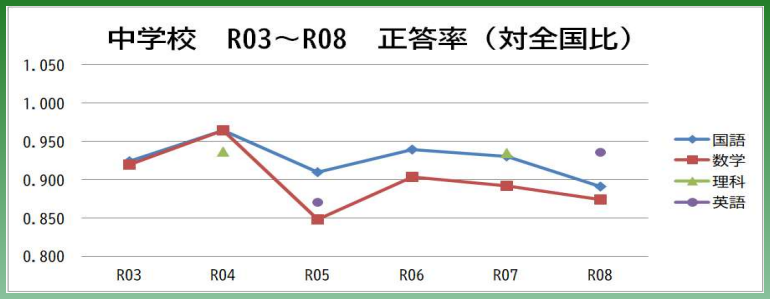
○平均正答率は、53.9%で全国を2.5ポイント下回り（対全国比0.956）、府を2.1ポイント下回った（対府比0.963）。

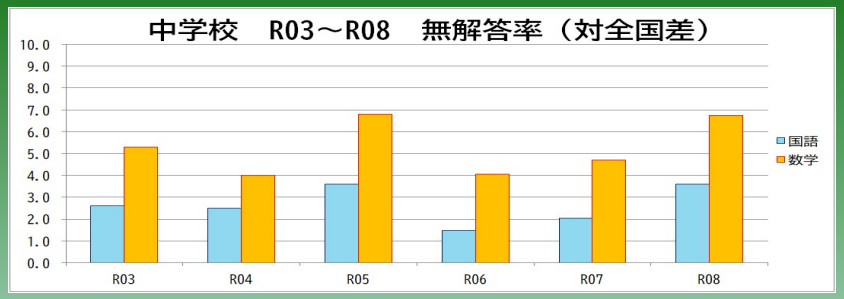
○全国の正答率とは差が見られる。特に「図形」「測定」「データの活用」の領域では、全国と比較すると差が大きくなっており、課題がある。また、「短答式」「記述式」の問題形式においても、課題がある。





【教科に関する調査結果】～和泉市調査結果（中学校）～





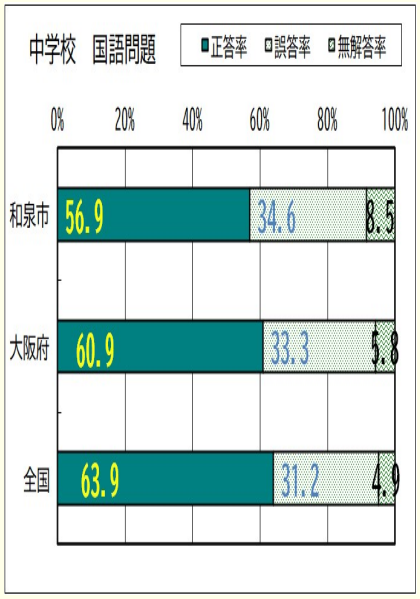
＊正答率（対全国比）
市平均正答率÷全国平均正答率
R7理科、R8英語は正答率の対全国比を
IRTスコアより算出しています。

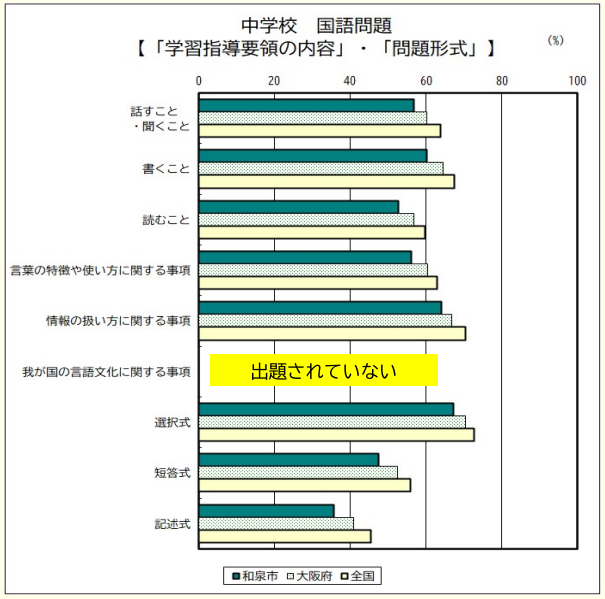
＊無解答率（対全国差）
市無解答率-全国無解答率

中学校　国語

○平均正答率は、56.9%で全国を7.0ポイント下回り（対全国比0.890）、府を4.0ポイント下回った（対府比0.934）。

○全国と比較すると全ての領域・問題形式で数値が低くなっており、特に「読むこと」に課題がある。また、全国同様、「記述式」の問題形式に、課題がある。





中学校　数学

○平均正答率は、49.8%で全国を7.2ポイント下回り（対全国比0.874）、府を5.0ポイント下回った（対府比0.909）。

○全国と比較すると全ての領域・問題形式で数値が低くなっており、特に「図形」「関数」「データの活用」に課題がある。また、「記述式」の問題形式において、課題がある。

